

平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	食品ロス削減事業
事業主体 (連絡先)	松本市 (市民環境部 環境政策課 環境政策係)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,292,795 円 (うち支援金: 940,000 円)

事業内容

- 家庭における削減の取組み
啓発用マグネットとリーフレットを作成し、市内保育園、幼稚園の年中児家庭、食生活改善推進委員主催の料理教室、食育シンポジウム等で配布し、家庭における意識啓発を積極的に取組んだ。
- 飲食店における削減の取組み
「残さず食べよう！30・10(サマル イマル)運動」の推進
宴会での食べ残し削減と合わせ、飲食店側にも食品ロス削減の取組みの協力を依頼した。
 - 会報用チラシ作成
商工会議所会報(7月号)用に作成したチラシを折込み、宴会を行う側(会社、事業所)料理を提供する側(飲食店)両方へ協力を依頼した。
 - 啓発用ペーパーコースター作成
協力飲食店で使用し、利用客へ協力を依頼した。
 - ポケットティッシュ作成
協力飲食店に配付するほか、イベント等で配付するなど、年間を通じ幅広く運動の周知と協力を依頼した。
- 広報まつもとによる啓発
広報まつもと(12月号)に食品ロス削減の特集記事を2ページ見開きで掲載した。

啓発用マグネットとリーフレット



会報チラシ



ポケットティッシュ

コースター



※ 1 自己評価 (事業実施率) 【 A 】

事業効果

- 飲食店店主、従業員自らが「残さず食べよう！30・10(サマル イマル)運動」の啓発を積極的に行い、また独自に料理や配膳の工夫を行った結果、

- 【目標・ねらい】
- 食品廃棄物の発生抑制と減量化
 - 「もったいない」意識の高揚
 - 環境問題の認識
 - 事業への住民参画

(別記様式第12号) (第3の8関係)

生ごみが減少し(例年の約半分の残飯量)、また、スムーズな下膳による作業の効率化、人件費の削減につながるなどの取組みの効果がみられた。

※2 自己評価(事業効果) 【 B 】

2 広報に掲載したことにより、事業者から啓発グッズの使用について問い合わせがあり、新たな協力店舗を増やすことができた他、市民からも宴会時に啓発グッズ使用したいとの申し出あるなど、効果的な啓発をすることができた。

3 食生活改善推進委員に広報したことにより、主催の料理教室で委員による啓発を積極的に行ってもらうことができた。

今後の取り組み

食生活改善委員主催の料理教室等、啓発用リーフレットの配付希望が増えていることから、今後はリーフレットの内容を更に充実させ、家庭への食品ロス削減の啓発を展開させていく。

「残さず食べよう! 30・10(サマル イマル)運動」を広く浸透させるため、協力飲食店を増やす他、引続き市民へPR活動を行っていく。

※1 自己評価(事業実施率)欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。

※2 自己評価(事業効果)欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある